

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果
食事のグリセミック・インデックスとパーキンソン病リスクとの関連

背景：インシュリンが脳内ドーパミン濃度を高める可能性が指摘されています。食事のグリセミック・インデックスやグリセミック・ロードとパーキンソン病リスクとの関連を調べました。

方法：症例群は UK Parkinson’s Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の 249 名の患者です。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学または宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 368 名としました。性別、年齢、居住地、喫煙、教育歴、BMI と脂肪、ビタミン E、鉄、アルコール及び食物繊維摂取を補正しました。

結果：交絡因子を補正した後、グリセミック・インデックスとパーキンソン病リスクとの間に有意な負の量－反応関連を認めました。炭水化物摂取、食物繊維摂取、グリセミック・ロードとは関連がありませんでした。

		Quartile				P for trend
		1 (lowest)	2	3	4 (highest)	
グリセミック・インデックス	中央値	59.5	64.0	67.5	71.4	
	症例/対照群	64/92	79/92	53/92	53/92	
	粗 OR	1.00	1.23	0.83	0.83	0.19
	(95% CI)		(0.80–1.91)	(0.52–1.32)	(0.52–1.32)	
	補正 OR	1.00	1.03	0.68	0.61	0.04
	(95% CI)		(0.64–1.66)	(0.41–1.15)	(0.34–1.09)	

結論：日本人においてはグリセミック・インデックスはパーキンソン病のリスク低下と関連しているのかもしれない。

出典：Murakami K, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Fukushima W, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M for the Fukuoka Kinki Parkinson’s Disease Study Group. Dietary glyceimic index is inversely associated with the risk of Parkinson’s disease: a case-control study in Japan. Nutrition. 2010; 26: 515-521.